

# 前払金

# 前払費用

## 使い分け&仕訳ルール

Money Forward クラウド

※ 本資料は参考情報であり、法令等への適合性や内容の正確性・完全性について、一切保証するものではありません。  
制度の適用にあたっては、必ず公的資料等をご確認ください。

※ 本資料の情報は、2026年6月作成時点のものであり、変更される可能性があります。  
ご利用の際は、必ず最新情報を公的機関にてご確認ください。



# 前払金と前払費用は何が違う？

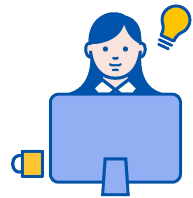
**前払金は商品や一時的サービスの先払い、前払費用は家賃・保険料など継続サービスの未提供分**を指します。どちらも流動資産ですが、費用になるタイミングが異なります。

なお、前払金を受け取った側（売り手）は前受金（負債）の勘定科目で処理します。

	前払金	前払費用
対象	商品・一時的サービス	継続的な役務
例	仕入の手付金、ホテル予約金	家賃、保険料、リース料
費用化	受取時	提供期間に配分

## 「前渡金」と「前払金」は同じ？

前渡金（まえわたしきん）は前払金と同じ勘定科目です。  
名称が違うだけで仕訳は同一。自社ルールでどちらかに統一してください。



# 前払金の仕訳：支払い→受取の2ステップ

## 例1 商品30,000円を全額前払い

### ■ 前払い時

借方	金額	貸方	金額
前払金	30,000	現金	30,000

### ■ 商品受取時（費用計上）

借方	金額	貸方	金額
仕入	30,000	前払金	30,000

## 例2 30,000円中10,000円を手付金 → 残額は受取時に支払い

### ■ 手付金支払い時

借方	金額	貸方	金額
前払金	10,000	現金	10,000

### ■ 商品受取＋残額支払い時

借方	金額	貸方	金額
仕入	30,000	前払金	10,000
		現金	20,000

※ 残額が後払いなら「買掛金」を使います。

# 前払いを建設仮勘定で処理するケース

有形固定資産（土地を除く）を新たに建設・製作するための前払いは「建設仮勘定」で処理します。前払金は流動資産、建設仮勘定は固定資産です。

ケース	使う勘定科目
商品・原材料の手付金	前払金（前渡金）
既存建物の購入の手付金	前払金（前渡金）
既存設備の修繕工事の前払い	前払金（前渡金）
新築建物の建設代金の前払い	建設仮勘定
新規設備の製作代金の前払い	建設仮勘定

※ 既存設備の修繕は原則「前払金」。新規の製作・建設のみ建設仮勘定を使います。

# 前払費用の仕訳：決算をまたぐケース

例3 3月決算法人が8/1に火災保険料150,000円（1年分）を支払い

■ 支払い時

借方	金額	貸方	金額
保険料	15万	現金	15万

■ 決算日：未経過4か月分を振替

借方	金額	貸方	金額
前払費用	5万	保険料	5万

■ 翌期首：再振替仕訳

借方	金額	貸方	金額
保険料	5万	前払費用	5万

※ 150,000円×4か月/12か月=50,000円。1年超の未経過分は「長期前払費用」（固定資産）に計上します。

## 「短期前払費用の特例」で振替不要に？

支払日から1年以内にサービスを受ける前払費用は、要件を満たせば支払時に全額損金算入できます（法人税基本通達2-2-14）。振替仕訳が不要になり実務が楽になります。

※ 仮払金は用途・金額が未確定の一時的支払いに使う科目です。確定後に前払金へ振り替えてください。

要件	ポイント
継続的な等質等量の役務	家賃・保険料など。顧問料やコンサル料は対象外
支払日～提供完了が1年以内	1年を1日でも超えるとNG
每期継続して適用	単年だけの適用は否認リスクあり